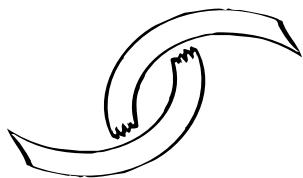


一人ひとりがそれぞれの個性や能力を活かし合い、共に生きる社会をつくるために



扉を開いて



北区男女共同参画推進ネットワーク会報

第91号

2025年11月26日

ねっとわーく
の活動

9月14日(日) スマホ講座 中級②



9月14日(日)の午前10時から、スペースゆう多目的室ABにて、「スマホ講座」の中級編として2回目の講座を開催しました。内容は、Google Map(道案内)、チャットGPT、LINEの日程調整機能、写真加工などでした。

ほとんどの参加者が初めて操作するアプリや機能に、驚きの声を上げたり、戸惑ったりと楽しく学ばれていました。



スマホ講座の講師といえば坪井美和さん(団体会員)。皆さん、iPhone、Androidなど機種も様々。ご自身のスマホを手に受講されました。

特集:『ねっとわーく』推薦による審議会等委員の報告

現在『ねっとわーく』で推薦している審議会等委員(敬称略)

審議会・委員会名	委員名	審議会・委員会名	委員名
北区男女共同参画審議会	桑田 美佳	北区交通安全協議会	(代表)
北区子ども・子育て会議	我妻 澄江	北区防災会議	(代表)
北区景観づくり審議会	矢吹 静子	北区国民保護協議会	(代表)
北区明るい選挙推進協議会	豊崎 徳子 木村 恵美子	北区社会福祉事業団評議委員会	川井 久子
北区健康づくり推進協議会	関根 玲子	北区社会福祉協議会評議員会	井上 ふみ子
北区青少年委員会	横田 正基 桑田 美佳	スペースゆう(北区男女共同参画活動拠点施設)地域スタッフ会議	眞庭 成子

『ねっとわーく』では、北区の12の審議会や委員会などに団体推薦で審議会や委員などを出しています。今号では、それらを担当している方々から活動内容などについてご報告をいただきました。

12の審議会や委員会の内、北区交通安全協議会、北区防災会議、北区国民保護協議会については、候補者を『ねっとわーく』から推薦するのではなく、団体の代表が選任されるいわゆる充て職となっています。

北区男女共同参画審議会（兼 北区女性活躍推進協議会）

桑田 美佳

私は北区男女共同参画審議会委員（兼 北区女性活躍推進協議会委員）を務めています。女性として、北区の一員として正確な意見を伝えるべき使命もありますが、何よりもたくさんのお先輩がいらっしゃる『ねっとわーく』から選出させていただいているので、毎回大変緊張し、責任を感じながら取り組んでいます。

私たちが暮らす社会は、様々な背景を持つ多様な人々によって成り立っています。地域の人々が安心して暮らしていける社会を実現するために、北区の政策に対して多様な意見が不可欠です。北区男女共同参画審議会はそのような意見を反映させるための重要な役割を担っています。

国や多くの自治体でも同様ですが、北区では「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会をめざし、施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、北区男女共同参画条例を基に北区男女共同参画行動計画「アゼリアプラン」を策定しています。「アゼリア」とは北区の花であるつつじの英語名とのことです。北区では、社会情勢の変化や目標の達成に応じて5か年計画として定期的に改定されています。

審議会では、まず区長の諮問に応じて調査・審議が行われ、「アゼリアプラン」の策定や変更について検討します。その後進捗状況の調査を行い、計画の実施状況や男女共同参画の推進に関する課題を調査し、進捗状況の確認をします。委員は専門的な知識を持つ方や地域で活動している方などバランスよく選出されています。パブリックコメントも実施されており、審議会と共に住民の意見を反映させる仕組みがあります。

私は審議会での検討を通して、男女の人権の尊重のみならず、働き方や子育て、介護や防災、地域参加など様々な分野に男女共同参画の視点が関わっていることを感じました。審議会での検討を少し難しいことと捉えていたこともありましたが、実は生活の身近なところこそ学ぶことは多く、それを審議会を通して北区の施策に意見していくことが大切だと思いました。日々学びながら、私自身の意識も更新していく必要があります。

さて、第7次アゼリアプランですが、計画策定の目的や北区・国・世界の動き、計画の枠組み、計画の内容等、実に読みやすくわかりやすい計画となっています。項目ごとに課題・現状・施策が並べてあるので問題点等が把握しやすいと思います。北区ホームページに載っていますので、ぜひご覧いただけたらと思います。

最後に、私自身微力ながら委員としてより良い活動をしていきたいと思っていますので、引き続きご助言やご協力をお願いいたします。

北区子ども・子育て会議

我妻 澄江

北区の子ども・子育て支援施策に関する各種計画の策定・実施について審議しています。妊娠から産後ケア、保育園・幼稚園、小中学校、児童相談所等複合施設の新設など議題が多岐に渡り、事前に送られてくる大量の資料を読み込んで会議に臨んでいます。担当課から事前にメール添付でデータでも送っていただけるので、運営委員や「子ども・子育て（支援）グループ」のLINEに転送し、メンバーから寄せられる質問や意見も毎回紹介しています。

委員は現在、学識経験者2・公募区民3、区内団体推薦7、行政関係者5の17名です。当初、団体推薦9名の委員で女性ばかりだったこともあり、とにかく出席して意見を述べて、最優先で出席していました。現在は団体推薦枠7人のうち、女性が4人となりましたが、「ねっとわーく」委員の意見を会議に反映すべく、やはり優先して予定を調整しています。

「子どもの幸せNo.1」を掲げる北区は子ども施策に大変力を入れています。最近では、2024年4月に施行された「北区子どもの権利と幸せに関する条例」について、2021年8月から2年半かけて話し合いました。団体会員『きたく子ども劇場』や『北区で子どもの遊ぶ場をつくる会』から出された、子どもの「意見表明権」「文化権」「遊ぶ権利」の尊重や「子どもの権利委員会」の設置、加えて条例名に「権利」を入れる件については粘り強く発言し、他の委員の方達にもご理解いただけたかと思えます。会議には毎回のようにグループの

メンバーの傍聴があり、団体からの推薦であることを強く意識しました。

滝野川地域で子ども食堂や学習支援教室、居場所事業などの「子ども支援」の活動をして9年になりますが、子ども達が「子どもの権利」を知る意義は大きいと感じます。子ども自身が自分の権利を自覚することで、日々の生活の中で自分の権利が侵害されていることに気付くことができれば、担任の先生やスクールカウンセラー、信頼できる地域の大人に話せて、行政からの支援にも繋がります。大人はもちろんのこと、子ども達にもこの条例を知ってもらう啓発が大切です。

北区子どもの権利擁護委員を講師とした区の「出前講座」が始まり、「ねっとわーく」でも早速申し込み、会員対象で11月に実施します。私たちがまず条例について知って、周囲に広げていければと思います。

この会議には現在4人の公募委員枠があり、うち1人は18歳〜29歳の子ども・若者、その他3人は「子育てをしている当事者、子育てで支援活動をしている方、子どもについて研究・または高い関心のある方」です。様々な立場からの意見が反映されるとよいと思います。



「北区子どもの権利と幸せに関する条例ハンドブック」は、幼児、小学校低学年、小学校高学年、中高生、大人向け、と各種発行されている。

スペースゆう地域スタッフ

眞庭 成子

地域スタッフの活動については30周年記念号にも載せましたが、地域スタッフとはスペースゆう登録団体よりの推薦で5名以内(今期は3名)が出ています。会議は通常、一年度に3回開催され、主に国の男女共同参画週間に北区が実施する事業の企画・運営について検討します。

2025年度の事業は、一つが6月21日の映画会「RBG最強の85歳」(2018年・アメリカ)。米最高裁判事として活躍したルース・バイダー・ギンズバーグのドキュメンタリーで、参加者の感想は、女性の権利について柔軟に考え、情熱・夫との関係性など素敵に、パワフルに生きた「RBGの生き方に感銘した」等々。

6月28日には、芝浦工業大学デザイン工学部UXコース教授の原田曜平さんの講演会「いったいあなたは何世代?」世代論から考えるジェネレーションギャップとジェンダー意識」で、世代間のジェンダー意識の違いをテーマに開催しました。とても分かり易く、各世代の特徴が面白く説明され、時間が足りなさそうでしたがとても勉強になりました。全般に今年度の参画週間は好評の内に終わり、ほっとしています。

10月8日の第2回会議では、2026年度の参画週間に向けての上映作品及び講演会の講師選考をしました。どれもが観たい聴きたい候補で選考に迷いましたが、3候補ほどに絞られましたので、乞うご期待の2026北区男女共同参画週間!!です。

北区青少年委員会

横田 正基

東京都の青少年委員会は、都独自の制度で市区町村ごとに組織され、教育委員会の下部機関です。身分としては2年任期で委嘱される非常勤職員になります。委員は青少年の健全育成と非行防止のために行政と地域のパイプ役となることが期待されています。

王子、赤羽、滝野川の3地区から様々な背景を持った60名の委員が集まっており、現在、『ねっとわーく』からの団体推薦では桑田美佳さんと私が委嘱されています。

組織としては、執行部の元に少年部、青年部、研修部、広報部の4つの部に分かれて活動しており、桑田さんは少年部、私は広報部に所属しています。

少年部が担当する小学5・6年生を対象にした「ジュニアリーダー研修会」。青年部が担当する中学・高校生を対象にした「シニアリーダー研修会」。区内で青少年を対象に活動する団体の指導者のステップアップを図る「団体指導者講習会」は研修部が担当しています。

それとは別に「北区小・中学生アイディア工展」、「親子でチャレンジ!飛鳥山」といった時期的な事業も行なっています。また、かつての成人式だった「二十歳のつどい」でも式典や「あの子と会える談話室」の運営などを担っています。

広報部はそれらの活動を記録しつつ、内部向けの「かわら版」と一般向けの「北区青少年委員会だより」という2つの広報紙を発行し、ホームページの更新も行なっています。

北区景観づくり審議会

矢吹 静子

「北区景観づくり審議会」は年に1〜2回審議会が開かれる。令和7年度の審議員は学識経験者が5名、区会議員6名、区民4名、関係行政機関3名、区職員3名の21名で構成されている。

「景観づくり審議会」では「北区景観づくり条例に基づく景観届け出等の状況」として過去3年間の建築行為、工作別、開発行為の件数が各地区別に、また「屋外広告物の事前相談件数」も報告される。

最新3月の審議会では、建築物等の届出事例（仮称）北区児童相談所等複合施設」の説明があり、2年前に『ねっとわーく』の「区議との懇談会」で議題にした児童相談所の報告と審査があった。心配していた南側の集合住宅からの視界



北区青少年委員会



【上】今年開催された「北区小・中学生アイデア工夫展」展示会終了後に撮られた委員の集合写真

「みんなでつくる北区景観百選2019」ガイドブックとマップ
ガイドブック（A4版53頁）は、区政資料室（北区役所第一庁舎1階）で、500円で販売。マップは、北区役所や区立図書館等で配布されている。

対策については各階のベランダを広くとり視界を妨げるように工夫し、敷地境界にはアルミ製の塀の設置などの報告があった。また工期については近年の建築価格の高騰で入札不調となり、仕上げ材等の検討で建設時期が遅れているとのこと。続いて隣接の（仮称）北区赤羽台1丁目計画」については、児童相談所敷地寄りには6階建ての低層（茶色系）にして、高層棟（29階・モノクロ色）は南側に配置されている。低層階と高層階の中央は公開空地にし、エレベーターとエスカレーターを設け、中高木を交えた緑地を取り、住民が訪れやすい空間に配慮し計画されている。この建物は既に工事が始まっている。

最近では区内でもタワーマンションの建設があちこちで計画されており、区民からの要望もいろいろ出されている。こういう建築物も建築確認許可の前に「景観づくり審議会」でも審議できるようにしてほしいと要望している。

2年前には施設見学会が行われ、「カトリック赤羽教会」、「中央図書館」と「中央公園文化センター」を見学し詳しい説明を受けた。こういう場所は是非、小中学生にも見学会のイベントを設けてほしいと要望した。

また、「北区景観百選2019」の発行にあたり、区民から景観投票を行い、20年ぶりに選定した。その中には「こどもが選ぶ景観」、「北区の彩り」、「夜間景観」や「景観カレンダー」も掲載されている。

これからも「北区景観づくり審議会」では、北区の景観が美しい街並みとなるように、議論を重ねていきます。

北区健康づくり推進協議会

関根 玲子

北区健康づくり推進協議会は、北区医師会、歯科医師会、薬剤師会、助産師会、学識者、議員、学校、地域からの委員20名で構成されています。

人生100年時代、変化する様々な社会環境の中、健康を維持し生活し続けられるため、北区は、令和6年3月に、「北区ヘルシータウン21」(第三次)を策定しました。健康づくり推進協議会では、令和6年の素案段階から協議を重ねました。

この中には、「北区食育推進計画」(第二次)、「北区自殺対策計画」(第二次)も含まれています。各種検診の参加の促進をはじめ、バランスの良い食事(特に野菜の摂取)、また、こころの健康を保つための様々な相談機関の設置や、悩んでいる人に「気づき、声かけ、話を聞いて、必要ない支援につなげ」見守る、ゲートキーパーの活動を広げることに重点が置かれているなど、幅広い内容です。

毎回の協議会の中では、「ヘルシータウン21」の進捗状況や今後の課題が検討されています。

また、すべての区民が自分らしく輝くことのできる健康都市北区を目指して「(仮称)北区健康づくり推進条例」が、令和9年4月条例施行を目指して検討が始まりました。

また、健康につながる「豊かな地域のつながり」の推進のため「健康づくり活動支援助成制度」「健康づくり人材バンク」も令和7年8月から、申請受付が始まりました。健康に生きるためには、医療だけでなく、区民、地域、学校など、様々な組織や繋がり大切さを実感しています。

社会福祉法人 北区社会福祉事業団 評議委員

川井 久子

平成4年4月に北区より設立された社会福祉法人 北区社会福祉事業団は、法人運営の決定機関としての評議委員(医師、上中里貝塚町会会長、NPO法人 東京都北区市民活動推進機構理事、社会福祉法人東京都福祉事業協会評議委員、上中里つつじ荘ボランティア活動団体代表、清水坂あじさい荘ボランティア活動団体代表、北区民生委員児童委員協議会から3名、北区男女共同参画推進ネットワーク)の計10名及び執行機関としての理事会(9名)、法人監査機関としての監事(2名)を置き運営をしています。

毎年6月に開催される評議委員会では、北区から受託して運営・管理をしている北区立の①特別養護老人ホームつつじ荘・清水坂あじさい荘(短期入所事業を含む)の2か所の特別養護老人ホーム、②3か所の高齢者在宅サービスセンター、③王子・赤羽西福祉作業所、赤羽西福祉工房、④2か所の地域包括支援センター(高齢者安心センター)などと⑤独自事業の指定居宅介護支援事業所、ホームヘルパー訪問事業所及び居宅介護支援事業所の計13か所の施設概要、事業内容、事業の実施状況などの報告を受けます。

また財政報告としての決算報告、監査報告の採決を行い、次年度の予算(案)を承認します。特に経営面では、近年収支の悪化、福祉人材の確保の厳しさにより、新たな時代に相應しい社会福祉法人としての改善に向けての取り組みをしているとのことですが、高齢化が進む中、介護保険制度の充実を望みます。

北区社会福祉協議会評議員会

井上 ふみ子

北区社会福祉協議会評議員会は、社会福祉法人制度の改正により平成29年4月に設置された。社会福祉法人は、地域における福祉サービスの中核的な担い手として位置づけられており、公益を目的とした公共性の高い組織である。評議員会は、社会福祉法人が適切に運営されるようチェックする役割を果たし、法人運営に係る重要事項の議決機関である。また、地域の福祉ニーズや福祉サービスを利用する当事者の声を社会福祉法人の運営に反映させていく役割もある。

社会福祉法人の経営組織は業務執行の決定機関である理事会、法人運営に係る重要事項の議決機関である評議員会、理事の職務執行の監査を行う監事（一定規模以上の法人が必要となる会計監査人）で運営されている。評議員会は、法人運営の基本ルール・体制を決定するとともに、役員の選任・解任を通じ、事後的に法人運営を監督する役割を果たす。

評議員は、各選出母体から推薦された26名（男性20名・女性6名）で構成されており、任期は令和7年6月25日～令和



北区社会福祉協議会のマスコットキャラクター「アイちゃん」
2025ねっとわーくまつりの北社協フードドライブにて

11年定時評議員会終結のときまでの4年となっている。年に1度の定時評議員会では前年度の事業報告・決算の承認等を審議し決議する。通常は毎年度2～3回程度開催されるが必要時には臨時に開催されることもある。令和6年度の理事会は5回（内2回は書面決議）、評議員会は2回（6/26・3/28）、監査が1回（5/23）であった。

北区明るい選挙推進委員

木村 恵美子

北区明るい選挙推進委員を仰せつかり、二期目になりました。

毎年2月に総会・研修が行われています。昨今の選挙事情についてのお話があります。投票用紙への候補者の名前の記載について、明確に記入されていないケースも多く見られるとのこと。当選者と次点の候補者との投票差が僅差の場合、次点の候補者から異議申し立てがあり、逆転当選することもあるという実際の事例についてお話がありました。とても興味深く聞くことができ、正確な候補者の氏名の記入が大切だと実感しました。

今年は、6月22日の東京都議会議員選挙と7月20日の参議院議員選挙が行われました。両日の選挙当日と参院選の期日前投票の立ち合いを行いました。また、都議選前に投票を呼び掛けるティッシュを、近隣のお宅に配りました。

まだまだ、投票率が高くない現状があります。少しでも多くの方が投票所に足を運び、貴重な一票を投じることを願っています。

日本初の女性総理大臣が誕生 ～北区の視点から～

2025年10月21日午後、第219回臨時国会における首班指名選挙により、第104代内閣総理大臣として高市早苗さんが選ばれました。日本史上で初めての女性の総理大臣就任となりました。

同日に組閣された高市内閣で指名された女性閣僚は、前の石破内閣と同数の2名で、大きな変動は見られませんでした。

保守色が強いことで知られる高市さんの総理就任については、男女平等に関わる人たちからも様々な意見がありますが、女性総理の誕生で今後発表されるジェンダーギャップ指数やランキングは変わることになります。しかし、女性閣僚や議員の割合については、今のところ大きな変動がないため、大幅なアップにはならないと予想されます。今後もそれらの改善が望まれることには変わりはありません。

北区民の視点では、高市早苗総理大臣、小池百合子東京都知事、山田加奈子北区長と、国・都・区のトップがすべて女性ということになりました。また北区議会では、ともに『ねっとわーく』個人会員でもある青木博子議長と石川さえだ副議長が就任しており、区長を含めた3ポストを女性が占めることとなっています。30年あまり前の『ねっとわーく』設立当時から考えると、まさに隔世の感があるといったところでしょうか。

第32回定期総会&2026ねっとわーくまつりの開催日が決まりました！

来年の「第32回総会」と「2026ねっとわーくまつり」の開催日程が決定しました。ご予約をお願いいたします。

「まつり」の詳細については、続報をお待ちください。

●第32回定期総会

日時：2026年5月23日（土）

●2026ねっとわーくまつり

日時：2026年5月23日（土）・24日（日）

また「2026ねっとわーくまつり」開催に向けて、実行委員会2回の開催を予定しています。

実行委員会の開催日程を掲載した「参加のお知らせ」を、後日お送りします。

展示、販売、体験、発表の各分野での参加をお待ちしています。

区議との懇談会

今回のテーマ「防災」です。

日時：2026年2月7日（土）
午後2時～

会場：北とぴあ 5階 スペースゆう
多目的室AB

北区NPO・ボランティアぶらざの協力を得て、前半では「YES/NOで答える 災害対応カードゲーム『クロスロード』」を、区議や区職員を交えたグループに分かれて体験します。後半は、そのグループでカードゲーム体験を振り返りながら、懇談を行います。

会報「扉を開いて」第91号

発行日：2025年11月26日

発行：北区男女共同参画推進ネットワーク

代表 大塚 麻子

ホームページ：<http://kitakudanjo.tokyo/>

メールアドレス：network@kitakudanjo.tokyo

印刷所：（有）青雲堂印刷



*編*集*後*記*

今号も最後までお読みいただきありがとうございました。特集については、皆さん難題に直面しながら苦労されているのがよくわかりました。私達の当たり前の日々の暮らしですが、様々な方のご尽力によって成り立っているのかもしれないですね。感謝しつつ、私にできることは協力していきたいです。（桑田）

編集：広報部 横田 正基
桑田 美佳 眞庭 成子

次号は2026年3月に発行予定です。

・現在会員数 団体23、個人63名、賛助1名